

第三十一回帝國議會  
衆議院

關稅定率法中改正法律案外一件（法律案（政府提出））委員會議錄（速記）第七回

大正三年三月十日午後一時三十九分開議

出席委員左ノ如シ

板東 勘五郎君

工藤 善太郎君

加賀 卵之吉君

吉原 祐太郎君

木村 良君

有森 新吉君

丸尾 小山 谷藏君

光春君

新吉君

有森 新吉君

丸尾 小山 谷藏君

光春君

（會議）

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案（政府提出）

○委員長（板東勘五郎君）ソレデハ是カラ會議ヲ開キマス、チヨット御報告致シテ置キ

マスガ、委員ノ田邊熊一君が辭任ヲ申出デラレマシテ、其補缺トシテ工藤善太郎君が

指名ニナリマシタ、即チ此處ニ出席サレテ居リマスカラ御承知置ヲ願ヒマス、引續キマシ

テ關直彦君外三名ヨリ御提出ニナリマシタ關稅定率法中改正法律案ノ討議ヲ續ケマ

ス、小山君ノ發言權ヲ保留シテ居リマスカラ

○加賀卯之吉君 私ハ質問演説ノ通告ガシテアリマスノデ、昨日言漏シタノヲ一言サ

セテ戴イテ席ヲ避ケタイト思ヒマス

○委員長（板東勘五郎君）ソレデハ宜シウゴザイマス

○加賀卯之吉君 昨日討論終局ノ積リアリマシタカラ簡単ニ申シマシタガ、其中言

残シダノヲ一ツ申上ゲテ置キタイト思フ、提案者ハ米が高イノハ他ノ物價ラ連レテ高カラ

シメル、米ノ高イノハ總テノ物價ノ標準ニナシテ居ルト云フコトヲ懇々説明セラレマシタガ、

凡ソ米價ト物價ト云フモノハ多クノ場合ニ必ズ伴フモノハナリ、伴フ時モアルガ伴ハヌ

時モアルト考ヘテ居ルガ、之ヲ歴史ニ依テ見マスト、明治二十年以降明治四十五年、

即チ大正元年マテノ十五年間ニ於テ、物價ト米トノ比較ハ明治三十一年ト二十五年

ト二十六年ノ三回ハ勞銀ニ比シテ稍高カッタ、ソレカラ十五年間ニ於テ勞銀ニ比シテ

米ノ高カッタノが前後四回、安カッタノが五回アリマス、ソレカラ米價ノ通貨ノ指數ニ比

較シテ高カッタコトガ三回アリマス、サウ云フ風デ必ズシモ米が高イカラソレガ本ニナシテ他

ノ物が高イト云フ根柢ハ是打破レルダラウト思シテ居リマス、此表ヲ置イテ置キマスカラ

ドウカ御参考ヲ願ヒマス

○有森新吉君 加賀サンノ御話ハ米ノ供給者ノ方カラノ御論ノミニアラ、米ノ價が高

クナレバ則チ生産費ヲ償フコトが出來ルカラ農家ガドンヽ米ヲ搾ヘル、是ハ當然ノ話デ

アシテ、米ノ價が高クナレバ供給者が段々餘計作ヲ行クノハ分ッタ話アルガ、米ノ關稅

ノ問題ヲ決スルノニハ必ズシモ供給者ノミヲ考ヘテハイカヌ、米ノ需要者ヲ考ヘナケレバ

ラス、價が高クナシタ時ニハ需要者ハドウデアルカ、高イ米ヲ食ハナケレバナラヌ、國民全

體ハ高イ米ヲ食ハナケレバナラヌト云フコトニナル、ソレデアルカラ政治フル人々ハ米ノ供

給者竝ニ米ノ需要者ト云フモノヲ兩方ニ見テ、政治ヲ施シ行カナケレバナラヌ、ソレカ

テ今日御話ノ物價トノ高低ト云フコトハ、如何ニモ高イコトモアリ安イコトモアリセウ

ガ、抑、勞銀ノ如キハ米ト云フ食料品が最モ其價ニ關係スルノデアラ、總テノ仕事ニ於

テ「コストン」ニナルモノが高ケレバ、自然生產費が高クナシテ來ルト云フコトハ普通ノ道理

デ、統計ニ於テ折節高低ガアルト云ノハ總テノ事情ニ依テ生ズルノデアラ、必シモ一ツ

ノ事柄ヲ以テ万般ヲ率スルコトハ出來ナイモノト思フ

○加賀卯之吉君 唯今有森君ノ私ニ對シテ生產者即チ供給者側ノミヲ觀タル議論

デアッテ、盾ノ半面ヲ見テ他ノ半面ヲ見ナイト云フ御話デアッタガ、昨日終ル積リデアッタカ

ラ秤ニ掛ケテ何方が重イカト云フノデ、重イダケノ話ヲシテ置イタノデアルガ、米ノ消費者ガ

幾ラデモ安イ米ヲ食ヒタイト云フコトハ論ヲ俟タヌ、昨年ノ如キハ有森君ノ如キ空漠タル

議論デナク、鐵道院ノ從業員郵便局ノ從業員等ノ薄給者ノ統計ヲ持ッテ來テ、斯ウ云

フ苦痛ヲ感ジテ居ルト云フコトヲ材料トシテ提供サレタコトモアリマシタ、併ナガラサウ高ク

テ困ルト云フ人ガアルナラバ、昨日モ申上ゲタヤウニ外國米ヨリ尙安イ食料品トシテ供

給スル食料品ガ日本ニハ澤山アルノデス、別ニ外國米ヲ求メズモ他ニ食料品ハアルノデ

ス、田邊君が昨日質問セラレタ如ク、九州ニハドウシテ外國米ガ入ッテモ少ナイカト云フ

ト、昨日モ申上ゲタヤウニ栗、黎、馬鈴薯、麥等ヲ產出シテ食ベテ居ル結果デアル、サウ

云フ風ニ日本ニハ下級ノ食料品ハ幾ラデモアル、ソレカラ東北々々ト頻リニ言ハレマシタ

ガ、東北デモ日本海沿岸ノ方ハドウモ麥ヲ作ラヌノト、麥ヲ食フ習慣が付テ居ナイ、併ナ

ガフ外國米モ食ハヌ、加賀、越中、能登、越前ノ方面ヘ行クト如何ニ安クテモ外國米

ヲ食ハス、外國米ヲ食フノハ秋田縣ノ一部ニ豐作デモ食フ處がアルノト、新潟縣ハ習慣

上從來カラ食テ居ル、ソレカラ山形縣ノ一部ニモアル、凶作ノ場合ニハ青森等ニ於テモ

隨分消費サレマスガ、是ハ他ニ代ルベキ食料品ガアレハ屹度外國米ヲ輸入シナクテモソ

レデ食ヘル、現ニ岩手縣ノ如キハ多ク稗ヲ食シテ居ル、都會ノ人が何故麥ナドノ安イ食料

品ヲ食ハヌカト云フト、都會ノ人ハ一體言フト怠者アル、麥ヲ買ッテ來テ笑マシタリ何カ

スルト面倒デアルカラ外國米ヲ食フ、トコロガ甚外國米ハ勞働者モ食ヤセヌ、勞働者ガ

レデ食ヘル、現ニ岩手縣ノ如キハ多ク稗ヲ食シテ居ル、都會ノ人が何故麥ナドノ安イ食料

品ヲ食ハヌカト云フト、都會ノ人ハ一體言フト怠者アル、麥ヲ買ッテ來テ笑マシタリ何カ

スルト面倒デアルカラ外國米ヲ食フ、トコロガ甚外國米ハ勞働者モ食ヤセヌ、勞働者ガ

レデ食ヘル、現ニ岩手縣ノ如キハ多ク稗ヲ食シテ居ル、都會ノ人が何故麥ナドノ安イ食料

品ヲ食ハヌカト云フト、都會ノ人ハ一體言フト怠者アル、麥ヲ買ッテ來テ笑マシタリ何カ

スルト面倒デアルカラ外國米ヲ食フ、トコロガ甚外國米ハ勞働者モ食ヤセヌ、勞働者ガ

レデ食ヘル、現ニ岩手縣ノ如キハ多ク稗ヲ食シテ居ル、都會ノ人が何故麥ナドノ安イ食料

品ヲ食ハヌカト云フト、都會ノ人ハ一體言フト怠者アル、麥ヲ買ッテ來テ笑マシタリ何カ

スルト面倒デアルカラ外國米ヲ食フ、トコロガ甚外國米ハ勞働者モ食ヤセヌ、勞働者ガ

米ダト云フト白米ヨリハ減リカ少イカラ、假ニ五千万石取レテ其中消費スルモノガ三千  
万石アルシテ、五分達<sup>シテ</sup>モ百五十万石多クナルト云フノデアリマス、要スルニ外國米ヲ  
食フ人ハ研究が足ラヌノデアリマス、研究シタナラバ日本ノ食料品ハ供給不足ハ訴ヘヌ、  
未ダ外國米ハ澤山東京ニ停滯シテ居ル、ソレダカラ決シテ日本ノ生産者ノコトトノミ思  
ヒ、消費者ノコトヲ思ハヌデハナイ、消費者ト寧ロ進ンデヨリ廉キ食物ヲ求メタナラバ斯ウ  
云フ苦情ノ起ルモノテナイ、マダ研究が足ラヌノデアリマス、馬鈴薯ヲ獎勵シテモ宜シ、東  
北ニ向シテ一毛作ヲ獎勵シテヤレバ出來スコトハナイ、埼玉縣ハ四五年前耕地整理前ハ  
麥が作レナカッタソレガ耕地整理ヲシテ麥が出來ルヤウニナツタ、洪水ノ爲ニ耕地整理ノ  
金ノ道が出來ヌト云フノデ、裏作ニ掛チテ麥ヲ取テ百姓が大ニ潤シテ、食料品ノ缺乏ヲ訴  
ヘナカッタト云フ事實ガアリマス、一向サウ云フコトヲシナインデアリマス、下級食料品ハ下  
級社會ニ供給シテ餘裕ガアルト信ジテ、疑ハヌノデアリマス、私ハ消費者ノコトヲ十分ニ  
思フテ議論ヲスルノデアリマスガ、殊ニ生産者ト消費者ト較ベテ見マスト、假ニ稅ヲ下ゲ  
テ廉イ食料品ヲ海外カラ入レテ日本ノ食料品ニ影響スルコトガアツナラバ、今度ハ反對  
ニヨリ以上高イ食料品ヲ求メナケレバナラスト云フ結果ニナリマス、提案者ノ如キハ實ハ  
近イ眼ノ人ガ見テ居ルト思フ、目ノ前廉ケレバ宜イト云フ話デ、日本ノ穀類ガ廉クナツテ  
生産力ヲ失ツテ來ルト、今度ハ高イモノヲ食ハケレバナラスト云フコトノ結果ニ陥シテ來ル  
ト思ヒマス、而シテ消費者ノ被ル害ト生産者ノ被ル害ト比較シテ見タナラバ雲泥ノ差ト思  
ヒマス、是ニ於テ鈴木梅四郎君ノ言ハレタ米ガ高クテ喜ブノハ大地主ノミデアル小作人  
ハ決シテ喜ビヲ分シモノデナイト云フ統計ガアルト云フ話デアツカガ、ソレガアレバ議論ガ起リ  
マスガ、私共ノ信ズル限りニ於テハ米ハ日本ノ多數ノ人ノ生産スルモノノデアル、麥ハ日本  
ノ多數ノ人ノ生産スルモノノデアルト云フヤウニ、生産者ガ苦ム方ガ大キナモノト信ズルガ故  
ニ、彼是比較シテ本案ニハ私ハ贊成シナイ理由デアリマス

○小山谷藏君 私モ原案反對ノ意見ヲ述ベタイト思ヒマス、私ノ反對スル理由ハ主ト

シテ國家ノ高等政治ノ見地カラ大體ノ議論ヲスルノデアリマス、米ノ關稅ヲ取ルタメニ或

ハ之ヲ結ブガタメニ農民ハドウ云フ苦痛ヲスルトカ、或ハ消費者ガ如何ナル苦痛ヲスルト

カ云フヤウナ細カイ研究ニ付キマシテハ、贊成論者又ハ之ニ對スル反對論者ノ大分細カ

イ御議論ガアツヤウデアリマス、自分ハサウ云フ點ニ付テハ餘り深ク研究ハ致シテ居リマ

セヌカラ、主トシテ大體論ヲスル積リデアリマス、積極的ニ本論ニ入ルニ先チ マシテ撤廢

論者ノ御意見ガ二ツアルヤウデアリマス、第一ハ鈴木梅四郎君等ノ主張ニナル撤廢シテ

モ米價ニ大シタ影響ガナニ殆ド影響ヲ及ボサナイト云フ見地カラ立テラタ議論デアリマ

ス——是ハ鈴木梅四郎君ニアリマセヌ有森君ナドノ御意見テス、又鈴木梅四郎君ノ如

キハ關稅ヲ撤廢スレバ非常ニ影響シテ米價ハ廉クナル、米價ヲ廉クシサウシテ食料品ヲ廉

クシ勞銀ヲ廉クシ生産費ヲ廉クスルト云フ、國家經濟ノ見地カラドウシテモ關稅ヲ撤廢ヲ

シナケレバナラヌト云フ御議論、其二ツガアルヤウニ思ヒマスガ、二ツ同ジ撤廢論者モ互ニ

米價ニ及ボス影響が違ツテ居ルト云フ御觀察カラ、其目的ニ於テ結論ガ相違致シテ居ルヤ

ウニ思ヒマス、米價ニ影響ガナイト云フ御議論カラ參ル 主張ハ、主トシテ貧民ガ高イ食

料品ヲ拂<sup>シ</sup>テ居ルノハ實ニ可哀想アル、氣ノ毒テアルト云フ社會政策ニ重キヲ措カレル

又米價ニ影響ハスルケレドモ商工經濟ニ最モ力ヲ入レナケレバナラヌ、今日國家ノ現

状デアルガ故ニ、此見地カラ關稅ヲ撤廢シナケレバナラスト云フニ一ツノ矛盾シタマデハ  
申シマセヌケレドモ、目的ヲ異ニシタ一案ガアルヤウニ思ヒマス、是等ハ撤廢論者既ニ互  
ニ其見地ヲ異ニシ、議論ノ根據ヲ異ニシ隨<sup>シ</sup>テ其目的ヲ異ニスルニ至ラテハ、撤廢論者ノ  
御議論ノ甚ダ基礎ノ薄弱ナルコトヲ信ジマス、又少クトモ此問題ヲ論ズルニ付キマシテハ  
研究調査尙足ラザル結果此處ニ至ルト思フノデアリマスカラ、撤廢論者ニ於テハ更ニ一  
段ノ研究ヲ積マレテ之ヲ論ズル必要ガアリハシナイカト思ヒマス、ソコテ昨日政府委員及  
ビ提案者ニ對シテ、此關稅ヲ撤廢スル爲ニ米價ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ又其程度ハ  
御議論ノ事実ガアリマス、下級食料品ハ下級社會ニ供給シテ餘裕ガアルト信ジマス、又少クトモ此問題ヲ論ズルニ付キマシテハ  
思フテ議論ヲスルノデアリマスガ、唯今申述ベマシカ如ク、撤廢論ノ意見が  
金ノ道が出來ヌト云フノデ、裏作ニ掛チテ麥ヲ取テ百姓が大ニ潤シテ、食料品ノ缺乏ヲ訴  
ヘナカッタト云フ事實ガアリマス、一向サウ云フコトヲシナインデアリマス、下級食料品ハ下  
級社會ニ供給シテ餘裕ガアルト信ジテ、疑ハヌノデアリマス、私ハ消費者ノコトヲ十分ニ  
テ廉イ食料品ヲ海外カラ入レテ日本ノ食料品ニ影響スルコトガアツナラバ、今度ハ反對  
ニヨリ以上高イ食料品ヲ求メナケレバナラスト云フ結果ニナリマス、提案者ノ如キハ實ハ  
近イ眼ノ人ガ見テ居ルト思フ、目ノ前廉ケレバ宜イト云フ話デ、日本ノ穀類ガ廉クナツテ  
ト思ヒマス、是ニ於テ鈴木梅四郎君ノ言ハレタ米ガ高クテ喜ブノハ大地主ノミデアル小作人  
ハ決シテ喜ビヲ分シモノデナイト云フ話デアツカガ、ソレガアレバ議論ガ起リ  
云フコトヲ先づ明ニシテ、サウシテ大體ノ見當ハ此邊デアラウト云フ位ノ程度ヲ明カニシ  
テ、然ル後ニ是ニ對スル議論ノ贊否が分レル要素デアラウト思ヒマスカラ、私ハ政府委  
員及ビ提案者ニ質問致シマシタ、ケレドモ要領ヲ得ズシテ終<sup>シ</sup>タノデアリマス、而シテ私ノ  
信ズル所ニ依ルト、關稅ノ撤廢ヲシタカラト云テ直ニ米價ノ上ニ今日課ケラレテ居ル所  
ノ關係カラ、即チ二圓五十錢ノ影響ヲ及ボスモノノデアルトハ思ヒマセヌ、一石ニ付テ二  
圓五十錢直ニ安クナルト云フコトヲ論セラレナイノハ、イロ——關稅撤廢論者カラ既ニ  
信ズル所ニ依ルト、關稅ノ撤廢ヲシタカラト云フヤウナ  
説明ガアリマシタ如ク、日本米ト外國米トハ自ラ多少用途ヲ異ニシテ居ルト云フヤウナ  
關係カラ、即チ二圓五十錢ノ影響ヲ及ボスモノノトハ思ヒナイカ、併ナガラ間接ニ農民ガ關  
稅ノ依<sup>シ</sup>テ受ケテ居ル所ノ保護ヲ受ケテ居ルト云フコトヲ信ズルモノノデアリマス、米價ニ對  
シテ二圓五十錢ノ影響ヲ及ボサナクテモ、間接ニ農民ノ生産スル麥トカ、米トカ換言ス  
レバ食料品ノ市價ニ影響ヲ及ボス、又幾分カハ米價ニ影響ヲ及ボス結果ハアルガ、關  
稅ノ爲ニ農民ハ多大ノ保護ヲ受ケテ居ルト云フコトヲ信ズルモノノデアリマス、故ニ此見  
地カラ今日農民ガ受ケテ居ル所ノ報酬ヲ取ルベキデアリマス、取シテ差支ナイ、或ハ  
保護ヲシナケレバナラス、又今日保護シテ居ル所ノ程度ハ充分デアルカ否ヤト云フ議  
論ガ分レテ來ルト思ヒマス、今既ニ此農民ガ關稅ニ依テ多大ノ保護ヲ受ケテ居  
ト云フコトヲ決定致シマシテ、今日農民ノ狀態ハドウ云フ有様デアルカト云フコトヲ  
考ヘテ見マスルト云フト、全國ノ農民ノ生活狀態ハ之ヲ商工業者ニ比シテ實ニ哀  
ナル狀態デアル、即チ彼等ノ生活程度——彼等が野ニ出テ働くコロノ狀態ハ、商工  
業者ノ狀態ト彼等ガ自分ノ職業ノ爲ニ働く其程度ハ、農民ノ方ガ遙カニ劣<sup>シ</sup>  
テ居ル、實ニ同情スベキ狀態デアルト云フコトヲ私ハ信ジテ居ルノデアリマス、此農  
民ノ勞力ニ對スルコロノ報酬及ビ自分ノ職業ヨリ得ルトコロノ利益ハ如何ニ哀  
ヌモノデアルカ、斯ウ云フコトニ付キマシテハ此處ニ細カク調査シタモノノ農商務省ノ農  
務局カラ貰<sup>シ</sup>テアリマス、是ハ農務局デモ餘程骨ヲ折シテ各種ノ細カイ所ニ立入<sup>テ</sup>調べ  
タモノデ、餘程參考ニモナル書類デアリマスケレドモ、餘リ浩瀚デ此處ニ付キマスカラ、唯此調査ニ依テ得タルトコロノ結論ト致シマシテ、彼等ノ報酬ナルモノハ  
其勞力ニ對スル報酬及ビ日常ノ報酬ハ如何ニ哀レナモノデアルカ、又彼等ノ生活狀態  
ハ如何ニ低イモノデアルカト云フコトダケ、此調査ニ結果明カデアルト云フコトダケフ申上  
ゲテ置キマス、既ニ斯ノ如ク外ノ職業、即チ商工業者ニ比シテ農業者ナルモノハ極ク哀  
レナル狀態ニアルト云フ以上ハ、私ノ信ズル所ニ付キマス、申上

ノ程度ハ未だ以テ充分ナリトハ言ハレナイ、換言スレバ一圓五十錢ノ關稅ヲ以テ相當ノ保護ヲ與ヘラレテ居ルケレドモ、今日我が國ノ農業者ハ之ヲ以テ充分ナリトハ言ヘナイト私ハ思フノデアリマス、是ヨリ以上ノ保護ヲ與ヘ、而シテ彼等ノ生活狀態及ビ國民トシテノ立場ヲ、モウ少シ改善進歩セシメルノ必要アリト信ズルノデアリマス、何故農民ニ向シテ國家ハ斯ノ如キ保護ヲ與ヘナケレバナラヌカ、何故農民ノ生活狀態——國家ノ要素トシテ斯ク主キヲ措クカト云フト、此國家ヲ形成スル上ニ於テ農民カ如何ニ重要ナルモノデアルカト云フコトヲ少シ研究シテ見タイト思ヒマス、今日我が國ノ狀態ヲ顧ミマスルト、地方ニ於ケル農民ハ唯今申上ゲタガ如ク勞力ニ對スル所ノ報酬ガ餘リニ哀レナルガ爲ニ、其途ニ安ンズル能ハズ、常ニ都會ニ於テ新シキ職業ヲ求メルモノガアレバ所謂都會集中ノ兆カ既ニ現ハレテ居ルノアリマス、是ハ歐米諸國ニ於テ殊ニ英吉利ニ於テ頗シテ、都會集中ノ弊ニ苦シテ、今日英吉利ノ政治家ハ又古ノ舊態ニ歸テ農村ヲ維持シナケレバナラスト云フ議論、及ビソレニ對スル所ノ相當ノ政策ヲモ既ニ考ヘツ、アルヤウナ狀態デアリマス、何故農民が斯ノ如ク國家ヲ形成スル要素トシテ、殊ニ農民ト云フ階級が斯ノ如ク主キヲ爲スカ、申スマデモナク農民ハ之ヲ商工業者ニ比スレバ彼等ノ健康狀態、體格ノ頑強ナルコト、從シテ國防上ノ軍隊ヲ組織スル所ノ要素トシテハ最モ大切ナルモノデアリマス、獨逸ニ於テ壯丁ノ體格検査ノ結果、農民及ビ其他ノ商工業ト比較致シマスルト云フト、其徵兵検査ニ合格スル壯丁ノ比例ハ非常ニ相違ナリ致シテ居康狀態、體格ノ頑強ナルコト、從シテ國防上ノ軍隊ヲ組織スル所ノ要素トシテハ最モ大切ナルモノデアリマシテ、我國ノ之ニ關スル統計ハ知リマセヌケレドモ、惟フニ居ルト云フヤウナ有様デアリマシテ、我國ノ農業者ト云フコトヲ考ヘタコト云フト、御承知ノ通り獨逸ノ國ハ北ハ露西亞、東ハ墺太利、南ハ方ハ佛蘭西ト云フヤウナ強國フ周圍ニ廻ラシテ居ル、ドウシテモ獨逸ノ國ヲ守ルニハ醇朴ニシテ且ツ堅實ナル思想ヲ有ツテ居ル農民ヲ邊境ニ散在セシメテ、其業ニ安ノ上ニ及ボス精神狀態ニ於テモ、農民ハ最モ剛健ノ氣性ニ富シテ居ル、又常ニ保守ノ精神ヲ以テ居ル、剛毅朴訥仁ニ近シ、是レ國家ヲ形成スル最モ重要ナルトコロノ精神ニ於テモ不知不識ノ間ニ影響ヲ及ボシテ來ルト思フ、此立派ナル美風ヲ持テル所ノ國民ハ、是ハ主トシテ農民ニ望ムベグシテ商工業者ニ望ムコトハ出來ナインデアル、商工業ニ從事スルヤツハ常ニ淫靡ニ流レ易ク、輕薄ニ流レ易ク、自然我國民ノ最モ美點トモ云フベキ愛國心ナント云フ點ニ於テモ不知不識ノ間ニ影響ヲ及ボシテ來ルト思フ、此商工業モ内地ノ商工業ト云フ範圍ニ止シテ居ツタ時代ハ、國家ト云フヤウナ觀念モアリマシタケレドモ、モウ一步進ンデ國際間ノ商工業、又今日我國ニ於テモニ「井」トカ云フ大キナ會社デハ日本對外國ノ商業關係ニアラズシテ、外國ト第三者國ノ貿易ヲ取扱シテ居ルトカ云フ風ニ進ンデ居リマス、是ハ曾テ歷史ニ於テモ「バンザ」同盟トカ「ボーランド」トカ云フ國ガ一時商工業ヲ以テ繁榮ヲ致シマシタガ、忽チ其國家存立ノ根柢ヲ失フタノデアリマス、商工業ト國家トノ關係ハ古ヨリ然リテアリマス、第三國ノ間ニ重キヲ置イテ國家ノ精神ヲ失シテシマッタ云フヤウナコトガ、歴史上ニ教訓モ書イテアリマス、要スルニ商工業ノ進ンデ來ル其結果ニハ、唯今申シマシタ如ク日本對第三國ノ商工業ニ密接スル深キ關係ヲ以テ進ンデ來ルコトハ當然ナル、其場合ニ於ケル愛國心即チ我國

ノ此世界ニ存在スルコロノ此ノ精神ノ上ニモ自然影響ヲ及ボサヌカ、又風教ノ上カラ申シテモ、隨分商工業者ト農民ト云フ階級トハ違ヒマス、彼等ノ醇朴ナル氣風等モ餘程其間ガ嚴格ナルヤウニ思ヒマス、孰レノ點カラ考ヘテ見マシテモ、農民ト云フモノ國家ヲ形成スル階級的要素トシテ最モ重キヲ置カナケレバナラヌ、最モ國家高等政治ノナル着眼點カラシテ、ドウシテモ農民ヲ基礎トシテ國家ヲ立テナケレバナラスト私共ハ信ズルノデアリマス、此事ニ付テ私が曾テ獨逸ニ居リマシテ切ニ感シタ一例ヲ御話シテ置キマスガ、御承知ノ通り千八百七十九年デアツタト思ヒマス、獨逸ニ段々商工業が興ツテ來マシテ、サウシテ關稅政策ヲ定メヤウツル時分ニ、丁度我國ノ米ニ相當スルトコロノ内ルノデアリマス、此事ニ付テ私共ハ曾テ獨逸ニ居リマシテ切ニ感シタ一例ヲ御話シテ置キマスガ、御承知ノ通り千八百七十九年デアツタト思ヒマス、獨逸ニ段々商工業が興ツテ來ニ興ランツトシツ、アリマス所ノ商工業者ノ勞銀ノ騰貴、其他ニ依ツテ受クル所ノ打擊ト云フ理由デ、猛烈ナル反對ヲシタ、所ガ獨逸ノ農業者ヲ保護スル政策ヲ主トシテ執ツタノ類ニ對シテ重キ關稅ヲ課シテ、サウシテ獨逸ノ農業者ヲ保護スル政策ヲ主トシテ執ツタノデアリマス、之ニ對シテ獨逸ノ商工業者ハ猛烈ナル反對ヲシテ、食料品ノ騰貴、從テ將家ハドウニ云フコトヲ考ヘタコト云フト、御承知ノ通り獨逸ノ國ハ北ハ露西亞、東ハ墺太利、南ハ方ハ佛蘭西ト云フヤウナ強國フ周圍ニ廻ラシテ居ル、土地ハ確固デアツテ、農民保護、即チ肉類ニ對スルトコロノ關稅政策ヲ立テタノデアリマス、其時ニ獨逸ノ政事シテ常ニ其處ニ定住セシメテ、職業ヲ與フルハ關稅ノ保護ヲシテヤラナケレバナラヌ、換言魯西、其他獨逸聯邦中ノ露西亞及墺太利方面ニ隣接シテ居ル、土地ハ確固デアツテ、殆ド農民ガ生産物ヲ得ヤウトシテモ何等ノ生産物モ無イトコロデアリマスガ、此方面ニ向ツテ農民ヲ定住セシメテ、職業ヲ與フルハ關稅ノ保護ヲシテヤラナケレバナラヌ、換言スレバ國法ノ上カラ又國家ヲ形成スルニハ醇朴ナル思想剛健ナル氣象ヲ保タシメル爲メニハ、ドウシテモ農民ヲ保護シナケレバナラヌ、換言スレバ商工業者デハイカヌ、國家ノ根柢ヲ立テルニハ此策ヲ執ラナケレバナラスト云フコトヲ獨逸ノ政事家ハ斷定ヲシテ、獨逸ハ關稅政策ヲ執リ今尙ホ關稅ヲ課シテ居リマス、サウシテ其ヤツテ居リマスノデアリマス、斯ノ如キコトハ唯單純ナル寧ロ私ハ古キ又ハ薄スペラナ商工業者ノ唱ヘル經濟論ナドニ耳ヲ傾ケズ、大ニ考フ此ニ致シテ居ルノデアリマス、大ニ是ハ研究ノ價ガアリ實ニ面白イ實例デアルト信ズルモノデアリマス、此獨逸ガ斯ノ如キ方針ヲ執ルニ至リマシタノハ、御承知ノ通り有名ナル歴史家「モムゼン」トカ或ハ「ツリスケー」トカ、又ハ經濟學者「シユモーレル」ト云フヤウナ近代ノ大學者ガ、是ニ對シテ獻策ヲシテ居リマス、是等ノ學者ガ古來ノ歴史ニ遡ツテ研究シ、其研究ノ結果ハ政府當局者ノ參考ニ與ヘタノガ原因トナツタノデアリマス、獨逸ガ此政策ヲ定メタノデアリマスガ、是等ノ學者ノ獻言シタ中ニ、特ニ面白イト思ヒマスノハ「モムゼン」ガ羅馬帝國ニ關スル意見デアリマス、羅馬ハ御承知ノ通りアノ大帝國ヲ建設シ、サウシテ殆ド世界ヲ一大帝國ノ中ニ包含セントシタ勢ヲ有シテ居リマシタガ、何故ニ羅馬が滅ビタカト云フコトニ立入りマスト「モムゼン」ノ研究ノ結果トシテ、羅馬ヲ形成シテ居ツタ處ノ羅馬人ノ健全ナル分子即チ「カンバグナ」ノ散在シテ居ツタトコロノ殊ニ羅馬民族ナルモノガ亞弗利加及亞細亞方面カラ安ク食料品が入ル爲ニ、遂ニ彼等ハ其存在ノ要素ヲ失ツテ、換言スレバ亞細亞亞弗利加ノ貿易ヲ開カレテヨリ「カンバグナ」ノ住民ハ生活ノ要素ヲ失ツテ、サウシテ「カンバグナ」ハ「ノ沙漠ノ如ク一變

シテシマシタ、換言スレバ羅馬ノ農民が其職ヲ失ヒ商工業者ガ繁榮シタ、羅馬ハアレダケノ威力ヲ以テ一時ハ非常ナ繁榮ヲ致シテ、所謂文明ノ花ヲ開イタノデアルケレドモ、此國家ヲ形成シテ居ル最大要素タル「カンパグナ」、農民が其職ヲ失ウタト云フコトガ、羅馬滅亡ノ原因デアツト云フ意見ヲ此「モムゼン」が出シテ居ルノデアリマス、是等ノコトハ今日我國ノ關稅政策、即チ國家ヲ形成スルトヨロノ要素タル農民ニ對シテ、如何ナル程度ノ保護ヲ與ヘテ宜シカ、又商工業者ニ對シテ何ウ云フ待遇ヲシテ宜イカト云フコトヲ決定スル上ニ重大ナル意味ヲ持チ、又參考ニナル話デアルト私ハ信ズルノデアリマス、是等ノ事例カラ考ヘテ見マシテモ、何如ニ此農民ト云フ者ハ國家ヲ形成スル上ニ於テ重要ナル要素デアルカト云フコトハ明カデアルト信ジマシテ、既ニ農民ニ今日ノ關稅法ハ多少ノ保護ヲ與ヘテ居ル、之ヲ撤廢スルト云フコトニ付テハ反對セザルヲ得ナイノデアリマス、今日ノ我が農民ノ状態ハ相當ノ保護ヲ受ケテ居シテモ、尙且先程申シマシタ如ク實ニ哀レナル状態ニアルノデアリマス、左ナキヤニ都會ニ向シテ生活ノ根據ヲ變轉セントスルヤウナ状態ガ既ニ現ハレテ居ル、ソレカラ更ニ商工業ヲ保護シナケレバナラスト云フ議論ニ對シテハ、是ハ經濟政策トシテ更ニ考ヘテ茲ニ附加ヘテ置キタイト思ヒマス、經濟政策トシテ米ニ關稅ヲ課シテ居ルガタメニ食料品ガ高クナル、隨テ勞銀ガ高クナル、隨テ生產費ガ高クナル、今日輸入貿易が非常ニ多クテ、輸出貿易ヲ獎勵シナケレバナラヌ場合ニ、斯ノ如キ生產費ヲ高クスルト云フヤウナ政策ハ甚ダ宜シクナイ、是ハ一應御尤モナ御議論ト思ヒマス、併ナガラ生產費ノ高イト云フコトハ若シ安クスル方法ガアルナラバ、是ハ如何ナル方法ヲ以テモヤシテ宜カラウト信ズルノデアリマス、然ラバ茲ニ考ヘナケレバナラヌノハ、原料ナキ工業ノ未ダ曾テ榮エタル例ナシ、又工業ナキ商業ニ未ダ曾テ繁榮シタル例ナシ、古今東西ノ歴史ヲ通觀致シマシテ、是ガ尤モ重大ナル——今日ノ所謂日本ノ新聞雜誌ニ現ハレテ居ル經濟論ノ多クハ、古キ「マンチエスター」ノ亞流ヲ汲ンダモノト私ハ思ヒマス「マンチエスター」ハ自由貿易論ヲ唱ヘ、其亞流ヲ汲ンダ日本ノ經濟學者、殊ニ新聞雜誌ニ現ハレテ居ル議論ハ此派カラ現ハレテ居ルモノト私ハ信ズルノデアリマスが、其點ニ於テ餘程間違ッタ考ヘテ持タレテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、商業ヲ盛シナラシメント欲スレバ其根柢ヲ形成スル工業がナケレバナラヌ、工業ヲ盛シナラシメント欲スレバ其根柢ヲ造ルトコロノ原料が無ケレハナラヌ、英吉利ハ曾テ他ノ國が未だ少シモ進マナイ時代ニ非常ニ先ニ工業若クハ商業が進シテ、自由貿易ヲ以テ榮エタガ、今日ハ既ニ其時ノ事情ヲ異ニシテ、英吉利ノ國內ニ於テモ此自由貿易ニ對シテ隨分イロ／＼ノ議論ノアルコトハ御承知ノ通リデアル、是モ近キ將來ニ於テ必ズヤ其方針ヲ改メナケレバナラヌ時代ガ來ルト云フコトヲ、今カラ豫期スルニ決シテ難クハナイノデアリマス同ジ仕事ヲスル「マンチエスター」ハドゥカラ其原料ヲ仰グノデアル、モウ少シ進シテ印度ナリ亞米利加ノ如ク自分ノ國ニ於テ製產スル原料ヲ悉ク消化スルコトニ努メテ、其工業若クハ商業が進シテ參リマシタナラバ「マンチエスター」ノ繁榮ハ一變シテ、曾テ和蘭ガ英吉利ノ羊毛ヲ原料トシテ羅紗ヲ造り、之ヲ世界ニ賣擴メテサウシテ和蘭ノ繁榮ヲ來

シタ歴史ガ、一朝ニシテ英吉利が自ラ製產スルトコロノ羊毛ヲ以テ自ラ羅紗ヲ造り、自其商業ヲスルト云フコトニナツタナラ、和蘭が顛覆シタト云フ歴史ヲ繰返スコトモ決シテ遠クハアルマイト思ヒマス、故ニ其國ノ商業ヲ盛シナラシメント欲スレバ其國ニ之ヲ伴フトコロノ工業ナカルベカラズ、又其工業ヲ盛シナラシメント欲スレバ其國ニ之ヲ伴フトコロノ原料ナカルベカラズ、原料ナキ工業ハ砂ノ上ニ建テタトコロノ家デアル、又工業ナキ商業ハ畫餅ノ如キモノデアル、一時ハ榮エテモ必ズヤ其工業國ナリ農業國が一步進シテ自ラ農業ナリ工業ナリヤル時代ガ來レバ、必ズ顛覆サレルト云フコトハ歷史ノ教ヘルトコロニアリマス、唯單ニ商工業ヲ盛シナラシメンガタメニ其根柢ヲ爲ストコロノ農民ノ保護ヲ撤廢シテシマフ、サウシテ商工業ノ經濟ヲ助ケルト云フ御議論ニ對シテハ、是ハ根柢ニ於テ私ハ反對スルノデアリマス、私ハ米ノ關稅ヲ現存シ且或ル意味ニ於テハ更ニモウ少シ度ヲ進メテ農業者ヲ保護シ、農業一國論ヲ主張スル積極的ノ理由デアリマス、終リニ臨ンテ撤廢論者ノ御議論ニ對シテ一一批評ヲ加ヘテ置キタイト思ヒマス、昨日有森君ノ御話デアツタ思ヒマスガ、主義トシテ食物ニ課稅スルコトハ宜シクナイ、食物ハ國民生活上缺クベカラザルモノデアル、ソレニ課稅シテ高クスルコトハ主義ノ上カラ宜シクナイト云フ御論ガアリマシタガ、併ナガラ我國ニ於テモ輸入關稅ヲ見ルト麥粉デモ豆デモ煉乳デモ稅ヲ掛ケテ居ル、又消費稅ノ形ヲ以テ鹽醬油ノ如キ物デモ課稅シテ居ル、又外國ノ例ヲ見マシテモ獨逸ノ肉ノ如キハ我國ノ米ノ如キモノデアリマスガ、ヤハリ肉ニ課稅ヲシテ居リマス、茲ニ大藏省カラ肉ニ對スル外國ノ關稅ノ表ヲ貴シテ置キマシタガ、佛蘭西獨逸、埃及太利、伊太利ノ如キ何レモ重イ稅ヲ掛ケテ居ル、唯英吉利亞米利加ノミハ無稅デアリマス、是ハ國情ノ如何ニ由ルモノデアッテ、主義論ハ論ズル價ノナイモノト思ヒマス、第二ニ社會政策ノ見地カラ米ニ關稅ヲ掛ケテ、サンキギニ米價騰貴ニ苦シニ居ル下流者、殊ニ外國米ノ需要者ハ下流者デアルカラ是ガタメニ受クル苦痛ハ甚ダシイカラ之ヲ撤廢シヤウト云フ御論ガアリマス、下流者ノ米ノ高イトメニ受ケル苦痛ハ御說ノ通りデス、出來ルナラバ是ニ對スル救濟ハ焦眉ノ急デアルト思ヒマスガ、同時ニ若シ是ダケノ保護ヲ受ケテ居テモ農民が如何ナル狀態ニ居ルカ、此保護ヲ取リ去ツダラバ今日實ニ憫レナル狀態ニ居ルモノが更ニ苦シキ狀態ニ陥ルコトニナルノデアル、シテ見レバ此關稅ヲ撤廢スルタメニ一部ノ商工業ニ從事シテ居ル、或社會ノ苦痛ハ救ヒ得ブレルガ、農民ノ受ケル苦痛ヲ考ヘマスレバ、片一方ヲ救ハント欲シテ更ニ大ナル弊害ヲ農民ノ下流社會ニ及ボスモノデハアルマイカ、而シテ國家社會ノ見地カラ農民ト商工業者ト何レが重キヤト云フニ付テハ、先程詳シク自分ノ意見ヲ述べ通リデアリマス、故ニ一部ノ商工業ノ下流ノ人ノ苦痛ハ同情スベキデアリマスガ、ヨリ大ナル苦痛ヨリ大ナル弊害ヲ他方面ニ貽スコトヲ考ヘレバ、關稅ヲ撤廢スル理由ハ薄弱デアルト存シマス、更ニ有森君ノ御意見ト思ヒマシテハ、先程詳シク自分ノ意見ヲ述べ通リデアリマス、故ニ一部ノ商工業ノ下流ノ人ノ苦痛ハ同情スベキデアリマスガ、我國ニ於テハ無論今日マテ未ダサウ云フ徵候ハアルトモ思ヒマセヌ、縱シ斯ノ如キ現象が現ハレテ來ルト致シマシテモ、是ハ經濟上ノ原因カラ來ルノデナクシテ、寧ロ社會道德ノ原因カラ來ルノデス、佛蘭西ノ今日ノ現象又ハ米國ノ一部ニ現ハレタル今日ノ現象ハ經濟ヨリハ寧ロ道德論デアリマス、若シ經濟の方面カラ見マスレバ、富ノ平均セルコト又中流以下ノ富シテ居ルコト貯金ノ狀態等ヲ

見マシテモ、富ノ進ンデ居ル國ハ佛蘭西ホドニ進ンダ國ハアリマセヌ、而シテ生産率ノ減退ハ佛蘭西ホド甚シキ國ハアリマセヌ、故ニ御心配ノ經濟上ノ原因カラ生産率ノ減退ヲ來スト云フ御議論ハ杞憂ニ止シテ、寧ロ道德上ノ見解カラ起ル現象アルト思ハレマス、又最後ニ商工經濟政策ヲ以テ我國ハ立タナケレバナラヌト云フ御論ニ付キマシテハ、先程大體御話ヲ致シマシタガ、若シ商工經濟ヲ主トシテ農民ニハ米價が廉クナリ、如何ナル苦痛ヲ與ヘテモ構ハヌ、我國ハ商工ヲ以テ立國ノ基礎トスルト云フ見地カラ其議論ヲスルナラバ、何故ニ自由貿易論ヲ御主張ニナラカト思ヒマス、是ハ主トシテ此提案者タル鈴木梅四郎君ノ御論ニ對シテノ駁論トシテ置キタイト思ヒマス、最後ニ我國ニハ毎年五六十万ノ人口が増加シテ、サナキダニ食料品ハ其需要ヲ充タスニ足ラズ、外國カラ渺ナカラ又輸入ヲシナケレバナラヌ、之ヲ如何ニシテ救濟スルカ、是ハ實ニ重大ナル問題デアッテ、米關稅撤廢論トハ關係致シマセヌケレドモ、間接ニ重イ關係ヲ持ツト信ズルノデアリマス、卽チ撤廢論者ハ到底我國ノ生產スル食料品ハ國民ヲ養フニ足リナイカラ、廉ク外國カラ輸入シテ食料品ヲ十分ニ供給スルヤウニシナケレバナラヌ、斯様ニ論ゼラレマスガ、併ナガラ其結果トシテ最前カラ述ベマシタ如ク、各方面ニ弊害ヲ來スト云フコトデアルナラバ、單純ニ唯食料ヲ與ヘルタメニ關稅ヲ撤廢スルコトハ到底出來ナイ、然ラバ如何ニシテ此過剩ノ人口ノ處分ヲスルカ、又食料品ノ不足ヲ補フカト云フ案ニ付キマシテハ、私ハ此解決策トシテ我國ハドウシテモ積極的ニ且ツ進取のニ殖民政策ヲ採リ又先程述ベマシタ商工業ハドウシテモ農業ヲ基礎ニシタコロノ商工業デナケレバナラヌト云フ理由ノ下ニ、領土擴張論ヲ主張スル者デアリマス、是デ大體私ノ撤廢ニ反對スル理由ハ終リマシタ

○有森新吉君 私ノ米價ニ影響スルト言ツタコトニ就テ或ハ少シク誤解ガアルヤウニ思ヒマス、私ノ述ベマシタコトハ今ノ外國米トソレカラ日本米トノ場合デアッテ、外國米ノ關稅ヲ取ル取ラヌト云フコトガ、直チニ日本米ノ價格ニ相違スルカシナイカト云フコトニ就テハ餘リ相違シナイ、且又種類が違フカラシテ此外國米ニ稅ヲ課シタコロガ課サレヌ所ガ、日本ノ米ヲ作ル者ニ對シテハ餘り影響ヲ及ボサナイト云フノアツテ少シク誤解ガアッタヤウニ思ヒマスカラ、其事ヲ一言申シテ置キマス、ソレカラ段々御話モアリマシタガ、餘リ議論スル必要モナカラウト思ヒマスガ、併シ少シク御話シテ置キマスガ、農民ヲ保護スルト云フコトニ就テハ私モ決シテ反對スル人間デハナイ、其農民ヲ保護スル點カラ今日ノ狀態ヲ考ヘテ見ルト云フト、日本ニ於テハ第一ニ農村ノ人口が大ニ増加シテ來ルニ反シテ、其增加ノ人口ノ増加ハ何處が一番多イカト云フト、農村ガ一番多イ、農村カラ人間ガ都會ニ出ルト云フコトハ、皆サン方ハ農村ニ利益がナイカラデアルト御觀察ニナツテ居ルヤウデアルケレドモ、吾ミノ考デハサウデナイ、農村ニハ非常ニ人口が増加シテ來ルニ反シテ、其增加シタ人間ノ耕地スベキ土地が増加シナイ、山ヲ耕サウカ山ヲ耕スコトハムカシイト云フ状態デアル、ドチラカト云フナラバ日本程山ノ上マテ耕シテ居ル所ハナイ世界ニ於テ日本ノ中國邊リノ如ク山ノ頂上マテモ耕シテ居ルヤウナ所ハ殆ド無イ、ソレ程日本ト云フ國ハ耕スコトニハ手ヲ盡シテ居ル、ソレデアルカラ農村ニハモウ耕スベキ土地ハナシ、人口ハドンノ増シテ來ルカラ、父サンが耕シテ居タ土地ハ長男ニハ讓レルガ、次男三男四男トナルト最早ドウシテモ他ヘ出テ仕事ヲシナケレバナラヌト云フ狀態デアル、ソレカラモウ

一つ或ハ今日デモ大地主ノ方が勢力が強クテ小サイ地主ヲ壓倒スルト云フ點ガアル、ソレダカラ小サイ地主ハ舉ツテ其村ニ住ウコトが出來ズシテ、都會ニ行カナケレバナラヌト云フ狀況ニナツテ居ル、或ハ又大地主ガ小作ヲ虐メルト云フヤウナ風ガアルノデ。ソシナニ地主先生ニ虐メラレル位ナラバ、寧ロ都會ニ行ツテ何カ他ノ職業ニ從事シタ方が宜イト云フ所カラ都會ニ出テ來ルノデアッテ、農村ガ疲弊スルガタメニ都會ニ出テ來ルノデハナイ、農村ノ人口が増加シ、而シテ其增加シタ所ノ人ニ農村ニハ職業ヲ與ヘル途がナイカラ、澤山ノ生產品ヲ狩ヘルヤウナ途ヲ講ジナケレバ農村カラ出ル人間ノ捌ケル途ガナイト云フコトニナリマス、例ヘバ一ノ會社ニ於テ一萬坪バカリノ土地ヲ以テ其處カラ一年ニ千五百萬圓モノ生產高ガアル、所ガ百姓ヲシタノデハソンナ大キナ生產高ヲ得ルコトハ出來ナイ、斯ウ云フ見地カラスルト大キナ會社ナリ小サイ會社ナリ澤山狩ヘテ、サウシテ農村カラ溢レテ來ル所ノ人間ヲ此處ヘ集メテ職業ヲ與ヘル途カナケレバナラヌ、斯ウ考ヘルノデス、所ガ一面農村ノ者ガ都會ニ集マルト云フト、其精神狀態ナリ或ハ衛生狀態ナリ、或ハ道德狀態ニ於テ良クナイ、農民ト云フモノハ實ニ良イ醇朴ナル者デアル、ケレドモ如何センサウ毎年殖エル所ノ人口ニ應ズルダケノ土地ヲ増加セシムルコトハ出來ズ、農村ノ生產力ヲサウ無限ニ増加セシムルコトハ出來ナイカラ、其多クナツタ人間ハ都會ニ集マル、其都會ニ集ツタ人間ニハ、何トカ職業ヲ與ヘル途カナケレバナラヌ、是ガ即チ根本タル議論デアル、吾ミハ何農業立國トカ、商工業立國トカ、ソシナ偏シタ議論ハシナイ、吾ミハ國家全體ヲ見テ農工商全體、即チ日本國民ヲ見テ日本國民ノ人口ノ増加ニ對シテハドウシタラ宜イカ、ソレニハドウシテモ土地ヲ十分ニ利用シ、土地カラ多クノ生產力ヲ出スヤウニスルト云フ方針ニ向ケナケレバナラヌト云フコトヲ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ獨逸ノ農業ノコトニ就テ御話ガアッタガ、私モ獨逸三行シテ居タカラ少シク御話ヲシ獨逸三行シテ居タカラ少シク御話ガアッタガ、私モ獨逸三行シテ居タカラ少シク御話ヲシマスガ、伊太利ノ農業ノ衰退ト云フコトハ、即チ今御話ノ如ク外國カラ食物ガ入ツテ來タ爲メアルト云フ御話デアツタケレドモ、此羅馬ノ國ト云フモノハ貴族が跋扈シテ土地ノ兼併が非常ニ甚シク、即チ今日マテ土地ヲ持テ働くイテ居タ農民ノ土地ヲ奪ア自作農民ト云フモノヲ無クナシ、皆小作人ニシテシマフ、其小作人モ非常ニ暴虐ニ使ツテ、土地ハ多クハ庭園ナドニシテシマッタ、即チ當時ノ羅馬ノ貴族ハ大キナ庭園ヲ狩ヘタリ、或ハ大キナ狩ヲスル場所ヲ狩ヘタリシテ、農業ヲスル所ハ僅カニシテシマッタ、サウシテ武力ヲ以テ諸方カラ澤山ノ金ヲ取テ來テサウシテ其取テ來タ金ハ無茶苦茶三奢侈ニ使ツテシマッタサウ云フ状態デアルカラ大地主ト小作人トノ間ハ非常ニ懸隔ヲスルヤウニナツタ、ソレガ爲メニ羅馬ハ食物ヲ得ルコトガ出來ズシテ、終ニ外國カラ食物ヲ輸入シナケレバナラヌヤウニナツタ、此ノ如ク農業ガ衰退シタ結果國ガ滅亡シタノデ、吾ミモ決シテソンナ國ヲ狩ヘルヤウナ考ハアリマセヌ、ソレカラ和蘭ガドウトカ「カーセーデ」ガドウトカ「ハンザ」同盟ガドウトカ云フコトデアリマシタガ、和蘭が盛シテアルトナハ海上權ヲ持ツテ居タカラデアル、海上權即チ武力ガ強ク船ヲ澤山持ツテ居テ、諸方ヲ征服シテ居タ時分ニハ盛シテアツタガ、其力ヲ失フト同時ニ即チ中心點ガ亡ビテシマッタ、又「ハンザ」同盟モ其通り皆互ニ持ツテ居武力ガ次第々衰ヘテ、ア、云フヤウニナツテシマッタ、和蘭ノ如キニ至ツテモ海上權ヲ

ヲ失シタコトガ原因テ衰ヘタ、衰ヘタノニモ種々原因ガアリマスガ、先ツ廢敗シタ云フコト  
ガ多イ「其原因ヲ」ト呼フ者アリ)サウ云フ御話ナレバ和蘭ノ國ノ話ヲスルガ、和蘭ハドウ  
カト云フト英吉利ドコロチャナ、非常ニ工業商業が盛シテアツタ、トコロガ和蘭ニ「ウイッ  
ト」ト云フ非常ナ大宰相ガアツテ、英吉利「チャンネル」ヲ和蘭ノ勢力範囲ニ置ナケレバ  
ナラヌ、英吉利「チヤンネル」ノ海上權ヲ持テ居ラナケレバナラヌト云フノデ軍艦ヲ造ツタ、  
ソレニハ稅ヲ増サナケレバナラヌ、稅ヲ増シタモノハ甘ンジテ受ケナケレバナラヌト云フノデ  
アツタガ、人民ハ之ヲ聽カナカズ、ソコデ英國ノ「コルメル」が海上權ヲ取ラレシマツテハ困  
ルト云フノデ、「ローテルダム」ヤ「アムステルダム」マデ海上權ヲ制シ、其爲メニ和蘭ハ工業、  
商業ヲ失ナツテシマツタ、ソレハ苟モ商業工業ヲ盛ニシ、サウシテ國ヲ盛ニ強クシャウトスレ  
バ同時ニ海上權ヲ取ツテ行カネバナラヌコトハ無論、話デアル、ソレカラ工業商業ヲ盛ニ  
スルニハ原料ガナケレバナラヌガ、英吉利ニ原料ハ何ガアルカト云フト鐵ト石炭ノミデア  
ル、又人間ガ澤山アツテモ一ツノ原料ニナル、即チ工業ヲ起スニハ労力モ一ツノ原料デア  
ハ、又原料ガ必ズシモ生ジナイデモ他所カラ取テ來テ、ソレラ集メテ一ツノ工業品ナラ工  
業品ヲ揃ヘテ、其工業品ヲ彼方此方へ運シテ行ク、ソレデ海上權ヲ有シテ居タラ決シ  
テ商業ノ衰ヘルコトハナイ、斯ウ云フコトデアツタ、ソレカラ佛蘭西ノ例ヲ御話ニナツタガ  
私モ佛蘭西ニ對シテハ一方カラハ憂ヘテ居ルガ、一方カラハ尊シテ居ル、日本モサウ云フ  
ヤウナ風ニナツテ來ハセヌカト云フコトハ憂ヘルガ、佛蘭西ノ人口が増加シナインハ佛蘭西  
ハ長子相續デナクシテ、子供ガ三人アルト財產ヲ二ツニ分ケル、子供ガ四人アルト四人  
ニ分ケル、ソレデアルカラ農民ハ直接ニ人口増加ヲ防グト云フ頭ヲ持ツテ來タ、人口が増  
加スルト土地ヲ賣ラナケレバナラヌ、賣ル時分ニハ非常ニ安イト云フヤウナコトデ、サウ云  
フ方カラシテ一人子供ヲ揃ヘタラ、アトノ子供ハ省イテシマフ、即チ日本ノ子殺シノヤウニ  
残酷ニ殺スノデハナイ、人工法ヲ以テ生マヌヤウニスル、是ハ決シテ道德上カラ來タノデ  
ハナイ、經濟上カラ原因ヲ來シタノデ、經濟上ニ於テドウシテモ自分ノ持テ居ル土地ヲ、  
三ツニモ四ツニモ分ナケレバナラヌト云フ時分ニハ、生產スルコトが出來ナイト云フ、全ノ  
相續ノ方カラヤツテ來タノデ、相續ノ上カラ人口増加ト云フコトニ付テ、斯様ナコトガ生  
ジテ來タノデアル、勿論經濟史ヲ御覽ニナレバ吾タが話サヌデモ分ツテ居ル、サウ云フ風デ  
吾タガ一番憂ヘテ居ルノハ、日本ノ國ハドウデアツタ云フト、日本ハ維新以前ハ所謂封  
建制度、海外へ人ノ出ルコトガナカツカラ、成ベク諸藩ガ其藩ノ中テ殖產事業ヲ興シ  
テ、土地ノ如キニ至ツテモ成ベク開墾シタモノデアル、サウシテ成ベク多く人民ヲ養フヤウ  
ナ政策ヲ取ツタノアリマス、ケレドモ今マデ長イ間人口ノ増加ニ付テ、イロクナ惡イ事  
が行ハレテ居ル、ソレハ多ク子供ガ生レルト紙ヲ濡ラシテ鼻ノ上ニ載セテ置ク、サウスルト  
息ガ詰リテ死ンデシマフ、サウシテ居ケルノニ死產トシテ居ケル、今日日本ノ風儀ハドウカ  
ト云フト死產ガ多イ、是ハ維新此方ヤカマシク言ツテ居ルシ、又海外へ移民へ送ルトカ大  
分融通ハ著イテ居ルガ、今日百分ノ四マデハ死ンデ生レル、此死ンデ生レル者ガ一年二十  
六万人アル、ソレデ私ノ考ヘテハソレハイロク原因ヲ爲シテ居ルガ、經濟上ガ原因シタ  
ト云フコトハ動カスベカラザルコトデアル、ソコデ食物ヲ人間ニ供給スルコトヲ困難ニスルト  
云フコトハ、即チ人口ヲ增加サセヌト云フヤウナ結論ニナツテ來ル、私ハソレデアルカラ  
關稅ヲ撤廢スルコトハドウシテモ必要デアルト思ヒマス

○木村良君 イロク御論モ伺ヒマシタガ、一體日本ノ尊王トカ商工ニ國論ナドヲス  
ルコトハ、此問題ニ對シテ餘所ヘ行過ギタ話デアリマス、況ヤ外國ノコトヲ論ズル必要モ  
ナシ、依テ私ハ茲ニ討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

○委員長(板東勘五郎君) モウ討論ハ宜イト思ヒマス、ソレデハ採決致シマス、此關  
稅定率法改正法律案關直彦君外二名ヨリ提出ニナリマシタ 所謂米ノ輸入稅撤廢ノ  
案ニ付ア採決致シマス、此案ニ同意ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

## 舉手者 少數

○委員長(板東勘五郎君) 念ノ爲ニ反對ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(板東勘五郎君) ソレデハ一名ニ對スル六名ノ多數ヲ以テ否決スベキモノト  
決定致シマス——ソレカラ政府案ノ方ニ移リマスガ、モウ御質問モ盡キタト思ヒマスカラ  
是カラ採決致シマスガ如何デス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 然ラバ此改正案ノ別表中ノ第二十五ノ芥子ヲ挿入ス  
ル、之ニハ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 是ハ可決致シマシタ、百十四號——是ハ如何デス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 此百十四號モ御異議ガナイト認メマシテ可決致シマシ

タ、百五十號硫化燐モ無稅、方ニ加ヘルト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 此項モ可決致シマシタ、第二百四十五號——陶器ニ使  
ヒマスルモノヲ無稅ニスルト云フコトニ付テ如何デス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 御異議ガナケレバ是モ原案通り可決致シマシタ、第二百  
八十三號モ糸織ノ内ニテ從來ノ從價稅ヲ從量稅ニスルト云フ問題ニ移リマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 是モ御異議ガアリマセヌカラ原案通り可決致シマシタ、二  
百九十四號中——毛粉ノ上ニ綿粉ヲ加ヘルト云フコトハ如何デス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 是モ原案通り決シマシタ、ソレカラ二百九十八號別號ヲ  
別項ニ改ムル、是ハ御異存ハアリマセヌデセウ、ソレカラ第三百號ノ「亞麻」ノ下ニ「苧  
麻」ヲ加ヘルト云フコトハ如何デス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(板東勘五郎君) 是モ御異存ガアリマセヌカラ原案通り二三八ノ一瓦斯



ト思ヒマスカラ、政府ニ於テモ尙ホ充分ニ御審査ノ上、次ニ於テハ此改正案ヲ提出セラレムコトヲ希望致シテ置キマス、是ハ希望ノ條件トシテ申上ゲテ置キマスカラ記録ニ留メテ置イテ貰ヒタイ

○委員長（板東勘五郎君） 今ノ森田君ノ御希望ノコトハ今恰度政府委員が出席サレテ居リマセヌガ、速記録ニ残リマスルシ、私共カラモ其事ハ政府ニ傳ヘテ置キマスガ、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○森田俊左久君 宜シウゴザイマス

○小山谷藏君 私モ此際希望ト申シマセウカ一言附加ヘタイト思ヒマス、此今度政府カラ提出サレタ修正案ニ付テハ、唯今殆ド満場一致ヲ以テ議決セラタノデ、之ニ對シテハ勿論何等ノ異議アルコトハアリマセヌ、併ナガラ日本ノ現行關稅定率法中ニ修正ヲ要スルモノハ今提出サレタモノノミニ止マラヌ、止マラヌドコロデハナイ、吾ミノ信ズル所ニ據レバ更三重大ナルモウ少シ廣イ且大キナ範圍ニ於テ、商工業ニ直接間接ニ關係ヲ有ツ品物ニ於テ修正ヲシナケレバナラヌモノガ多々アルト思フノアリマス、本員が昨日政府委員ニ質問致シマシタ鱗寸軸木ノ如キハ其一例デアリマス、其外私ハ直接ニ商工業ニ關係シテ居リマセスカラソレ等ニ對スル智識ノ極メア狄イ立場ニ居ルトコロノ私ノ知レル範圍ニ於キマシテ、尙ホ他ニ多々アルヤウニ思フノアリマス、例ヘバ最モ穩健ナル議論ト致シマシテモ外國カラ輸入シテ參リヌル總テノ儀裝用ニ使フ鐵類デアルトカ、或ハ櫛デアルトカ、櫛ニ使フ材料トカ大變重キ關係ヲ持ツモノデ、儀裝ニ使フ「パッキンマテリアル」ト云フモノノ中ニ油ヲ入レル「アイアンドラム」アレナンカハ日本ノモノハ到底以テ用ヲ爲サナイ、外國カラ來ルノハ高イ關稅ヲ拂ハナケレバナラヌト云フヤウナ點ニ於テ當業者ハ妙カラズ迷惑ヲシテ居ル、商工業者ガ商賣ヲスル上ニ於テ其儀裝ヲスルニ用井ルモノ等モ非常ニ關稅ノ爲メニ迷惑ヲシテ居ルト云フコトハ、此等ハ修正ヲ直チニシナケレバナラヌモノデハナイカト思フノアリマス、又鐵類器械類ノ如キデス、鐵類ナント云フモノハ是ハドウシテモ獎勵シテ相當ノ保護ヲ加ヘテ、内地ニ於テ十分其職業ヲ發達サセナケレバナラスト云フコトハ無論異議ノナイ所デアリマスケレモ、其中デモ特ニ相當ノ修正ヲシナケレバナラヌト思フノハ「ビクアイアン」デアル、此等ハ直接ニ使フモノニアラズシテ更ニ内地ノ工場ニ於テ一度モ二度モ相當ノ加工ヲ經ナケレバナラヌ、言換ヘテ見レバ殆ド鐵ノ原料ト見ルベキモノデアル、此事ハ本會ニ於テ早速君カラ大分鐵類ニ對スル御議論モアリマシタヤウデアリマスガ、此等ハ今日ノ我國ノ商工業ノ問題カラ見テ大ニ研究スル值ノアルモノト本員ハ信ズルノアリマス、殊ニ今輸出入貿易ノ逆潮ノ際ニ、生産工業ヲ獎勵スルト云フ意味ニ於テ器械類ノ輸入稅ニ多少ノ手加減ヲ加ヘテ、此際特ニ内地ニ於ケル工業ノ勃興ヲ獎勵スルト云フ方法ヲ研究スル必要ガアラウト思ヒマス、特ニ貿易關係が支那ノ貿易ベテ特別ノ立場ニ居ルト云フ所ノ日本ガ、此機會ニ乘シテ非常ナル努力及發展ヲ計畫命ノ結果非常ニ勃興シテ居ル、サウシテ外國カラ頻リニ外債ヲ仰イデ、ソレガ民間ニ擴マル、隨テ覺醒シタル國民ガ外國品ヲ需用スル、而シテ外國カラノ借錢ガ民間ニ——公債ノ金ガ民間ニ擴マツテ行ク、ソコデ言換ヘテ見レバ支那貿易ニ對シテ殊ニ他ノ國ニ較メノ輸入等ニ對シテ多少ノ手加減ヲ加ヘルト云フコトモ政策上大ニ熟考ヲ要スル値ノ

アル問題ト考ヘマス、之ヲ換言致シマスルトモウ少シ根本ニ立入ッテ關稅ノ修正案ヲ政府カラ更ニ提出サレンコトヲ希望致シマシテ、此今度ノ原案ニ付テハ可決シタ通リ贊成ノ意見ヲ表シテ置キマス

○委員長（板東勘五郎君） 唯今ノ御希望ハ何レ速記録其他ニ於キマシテ、政府ノ方ヘ其趣意ヲ致スコトニ致シマス、是デ此會ハ閉マス、長ラク御苦勞デゴザイマシタ

午後二時二十四分散會